“ここにいてはダメ”
江戸川区ハザードマップに大きな反響

①

②

③

④

⑤

▲『ニュースウォッチ９』での放送の様子
（2019年6月5日 21時30分頃～）

①『江戸川区のほとんどが水没』という予測

②ここにいてはダメ、ではどうすればよいのか？
→自治体は避難場所を設定していない

③『各自で避難先を確保してください』
（冊子には、広域避難ができない場合の避難先などの情報も詳細に案内されています）

④地元自治会長たち「行政がなんとかしてくれると皆さん思っているから…」「一体誰が助けてくれるの？って。そんなことばっかりしか考えない。それじゃダメ」

⑤2017年のハリケーン襲来で、フロリダから600万人が広域避難した時の様子（1,000kmを移動した人もいた）

資料：NHK NEWS WEB、ニュースウォッチ9、江戸川区ホームページ

（6月5日　NHK NEWS WEB　ほか）

11年ぶりに改訂された江戸川区のハザードマップ。表紙には、江戸川区の地図の場所に**「ここにいてはダメです」**と記されたうえで、東側の千葉や茨城方面、西側の埼玉、東京西部、神奈川方面と、浸水のおそれがない地域に避難するよう矢印が書かれています。

マップには、大型台風が接近して想定される最大規模の豪雨や高潮が発生し、荒川と江戸川が氾濫した際の浸水の想定が示されています。

想定では江戸川区のほぼ全域が浸水し、建物の3階から4階に当たる5メートル以上の浸水が発生する地域もあるとされたほか、区内の広い範囲で1週間から2週間以上の浸水が続くとされています。

また小中学校などの避難所やマンションの3階以上に避難しても救助が難しく、電気や水道などが使えない生活に長期間、耐えなければいけないとしています。

このため区内にとどまるのは危険だとして、浸水のおそれがない区の外の地域へ「広域避難」をするよう区民に求めています。

江戸川区防災危機管理課の本多吉成統括課長は「江戸川区で大規模な水害が起きると大部分が浸水し、しかも浸水時間が長くなる。ここにいては危険で、そうなる前に安全な場所に逃げてほしい」という思いで、「ここにいてはダメです」ということばを使った。ハザードマップに関心を持ってもらえるのはありがたい。表紙だけでなく中身をしっかり見て水害のことをよく知ってもらい、避難行動に結び付けてほしい」と話していました。

一方、大きな課題も残っています。

江戸川区が区外に「広域避難」する避難先を確保できていないことです。

このため、区民それぞれが区の外にある親戚や知人の家、宿泊施設、それに勤め先を避難先として確保するよう求めています。

これについて区は「いつ大規模な水害が発生するか分からない中で、**まずは広域避難の重要性を知ってもらうため、避難先を確保する前にハザードマップを発表した**」と説明しています。

そのうえで、今後、国や東京都とも連携して、避難先の確保に努めたいとしています。

ハザードマップ作りに関わった東京大学大学院の片田敏孝特任教授は、**広域避難が必要な際には台風の上陸が予想される48時間前から避難の呼びかけが始まると想定される**ため、その時の行動を事前に家族で話し合うなど準備しておくことが大切だとしています。（要約は文責による）

江戸川区水害ハザードマップ　https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e007/bosaianzen/bosai/kojo/kanrenmap/n_hazardmap.html

we support↓
RQ 災害教育センター
MONTHLY
復興支援 かわらばん『すけさきた』しんぶん
「東北に黒糖を送ろう！大作戦しんぶん」改め
「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である
JUNE 11 2019

文責：井上文子（西表島エコツーリズム協会　東北復興支援担当）